

変更の事由及び時期を記載した書類

| 事 項 | 記 入 欄 | 備 考 | | | | | | |
|------------------------------|---|------------|------------|--------------|------------|----------------|-----------------|--------------------|
| フ リ ガ ナ 設 置 者 | コウリツダイガクホウジントヤマケンリツダイガク 公立大学法人富山県立大学 | | | | | | | |
| フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称 | トヤマケンリツダイガク ダイガクイン 富山県立大学大学院 (Toyama Prefectural University Graduate School) | | | | | | | |
| 大 学 本 部 の 位 置 | 富山県射水市黒河5180番地 | | | | | | | |
| 新設学部等の概要 | 新設学部等の名称 | 修業 年限 | 入学 定員 | 編入学 定員 | 収容 定員 | 学位又 は称号 | 開設時期及 び開設年次 | 所 在 地 |
| | 工学研究科 | 年 | 人 | 年次 人 | 人 | | 年 月 第 年次 | |
| | 知能ロボット工学専攻(M) (知能デザイン工学専攻(M)) | 2 | 20 (17) | — (—) | 40 (34) | 修士(工学) | 平成18年4月 第1年次 | 富山県射水市 黒河5180番地 |
| | 電子・情報工学専攻(M) (情報システム工学専攻(M)) | 2 | 27 (17) | — (—) | 54 (34) | 修士(工学) | 平成18年4月 第1年次 | |
| | 環境・社会基盤工学専攻(M) (環境工学専攻(M)) | 2 | 15 (12) | — (—) | 30 (24) | 修士(工学) | 平成25年4月 第1年次 | |
| 生物・医薬品工学専攻(M) (生物工学専攻(M)) | 2 | 26 (15) | — (—) | 52 (30) | 修士(工学) | 平成8年4月 第1年次 | | |
| 計 | | 88 (61) | | 176 (122) | | | | |
| 変 更 の 事 由 | <p>1. 名称変更の内容</p> <p>(1) 知能デザイン工学専攻(M) (英訳名: Intelligent Systems Design Engineering) 「知能ロボット工学専攻(M) (英訳名: Intelligent Robotics)」に名称を変更</p> <p>(2) 情報システム工学専攻(M) (英訳名: Information Systems Engineering) 「電子・情報工学専攻 (英訳名: Electrical and Computer Engineering)」に名称を変更</p> <p>(3) 環境工学専攻(M) (英訳名: Environmental Engineering) 「環境・社会基盤工学専攻(M) (英訳名: Environmental and Civil Engineering)」に名称を変更</p> <p>(4) 生物工学専攻(M) (英訳名: Biotechnology) 「生物・医薬品工学専攻(M) (英訳名: Biotechnology and Pharmaceutical Engineering)」に名称を変更</p> <p>2. 名称変更の理由</p> <p>平成28年4月以降、工学部全学科の拡充を漸次進めており、当該拡充による学科の入学・収容定員の増員及び名称変更並びに学科の新設を受けて、学部から大学院博士前期課程にかけての「6年一貫教育」の拡充を図る。</p> <p>学部の卒業生が増加することや「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムへの参画等によって、県立大学の大学院で高度な研究をしたいと希望する学生も増えると考えられることなどから、全専攻(博士前期課程)の入学・収容定員を増員するほか、学部の学科の名称変更、学科の新設に合わせた研究科の専攻(博士前期課程)の名称変更など、工学部の学科拡充に合わせた大学院研究科専攻の再編を行う。</p> <p>なお、今回の名称変更に伴って教育課程を一部変更するが、これは、既存科目の質的拡充と学生の選択の幅を拡大するため、授業科目の変更等を行うものであり、教育課程全体としては専攻名称変更前後において同一性は保たれている。</p> <p>(1) 知能デザイン工学専攻(M)→知能ロボット工学専攻(M)</p> <p>知能デザイン工学専攻の基礎となる工学部の学科は「知能デザイン工学科」であったが、同学科は平成28年度に入学定員を50名から60名に増員した。これに合わせて、県内産業界からのニーズおよびロボット分野の教育研究を希望する学生が「知能デザイン工学科」には多いことなどを勘案し、教員を3名増員すると共に、学科設置時から取り組んでいるロボット分野に関する教育研究を強化した。これに伴い、その実践する教育研究内容をよりの確に表現する学科名称にすべく、平成30年4月に「知能デザイン工学科」から「知能ロボット工学科」に名称変更した。</p> | | | | | | | |

これら「知能ロボット工学科」の一連の拡充に同期して本専攻においても、「知能ロボット工学科」で増員した教員3名を本専攻に配置し、ロボット分野の教員を充実させてきた。さらに、物性物理学などロボット分野から離れた学問を専門とする教員を令和3年4月に電子・情報工学専攻へ移籍することで教員を適材適所に整理する。これら教員の増員・移籍に伴って、本専攻の教育理念に配慮しつつ、ロボット分野の教育研究内容の強化を進めている。以上の経緯から、本専攻の教育研究内容をよりの確に表現する専攻名称にすべく、令和3年4月から「知能ロボット工学専攻」に名称変更する。

(2) 情報システム工学専攻(M)→電子・情報工学専攻(M)

情報システム工学専攻の基礎となる工学部の学科は「情報システム工学科」であったが、情報分野だけでなく電気・電子分野の教育研究を行っていることが受験生やその保護者、企業等に分かりにくいことから、平成29年度にその名称を「電子・情報工学科」に変更した。今回の専攻名称の変更は、その電子・情報工学科の学生が4年間の課程を終えて大学院に進学する年度に同期して、学部組織と教育研究の内容からも整合させるために行うものである。

(3) 環境工学専攻(M)→環境・社会基盤工学専攻(M)

環境工学専攻は、平成25年度に設置したものである。環境工学と社会基盤工学の教育研究を行うことにより、「持続可能な循環型社会の構築、環境保全方策の立案・展開、及び国際的な技術交流に貢献できる人材を育成すること」を目標として掲げ、環境工学分野と社会基盤工学分野に人材を輩出してきたが、「環境工学専攻」という専攻名では、企業等に分かりにくく、平成29年度に環境工学専攻の基礎となる学部の学科の「環境工学科」も「環境・社会基盤工学科」へと名称変更したことから、「環境・社会基盤専攻」へ名称変更し、人材育成の方向性を対外的により分かりやすく示すものである。

(4) 生物工学専攻(M)→生物・医薬品工学専攻(M)

生物工学専攻は、平成8年4月の設置以降、酵素化学工学、応用生物プロセス学、微生物工学、生物有機化学、機能性食品工学、植物機能工学、応用生物情報学を中心として、幅広いバイオテクノロジーの知識や考え方を身に付けた人材を養成してきた。生物工学専攻やその基礎となる学部の学科の「生物工学科」での教育研究実績をもとに、平成29年4月に、製薬化学工学、バイオ医薬品工学を中心とした「医薬品工学科」が設置されたこと、また、平成30年から開始された地方大学・地域産業創生事業「くすりのシリコンバレーTOYAMA」において、県内医薬品産業の人材育成ニーズへの対応が求められていることから、医薬品工学科の1期生が大学院に進学する令和3年4月に、「生物工学科」と「医薬品工学科」の両学科の学問分野を統合し大学院教育を実施する予定である。そのため、研究・教育内容を反映させた「生物・医薬品工学専攻」へと名称を変更するものである。

3. その他

(1) 既存専攻に係る博士後期課程の廃止、総合工学専攻(博士後期課程)の新設

既存専攻〔機械システム工学専攻(D)、知能デザイン工学専攻(D)、情報システム工学専攻(D)、環境工学専攻(D)及び生物工学専攻(D)〕に係る博士後期課程の廃止、総合工学専攻(D)の新設については、別途届出を行う。

(2) 博士前期課程の各専攻の収容定員の変更

博士前期課程の各専攻の収容定員に係る学則変更の届出については、上記(1)の総合工学専攻(D)の設置届出の基本計画書に記載するため、当該学則変更の届出を省略する。

| | | |
|-------|----------|--|
| 変更の時期 | 令和3年4月1日 | |
|-------|----------|--|